



Better Health, Brighter Future

2014 年度 第 2 四半期 業績概要 DATA BOOK

武田薬品工業株式会社(証券コード:4502)

お問い合わせ先 コーポレート・コミュニケーション部
TEL:03-3278-2037
FAX:03-3278-2741
<http://www.takeda.co.jp/>

決算データ
<http://www.takeda.co.jp/investor-information/results/>

タケダイズム

わたしたちタケダグループの従業員は、いかなる場面においても、常に誠実であることを旨とします。誠実とは、何事にも高い倫理観をもって、公正・正直に取り組む基本姿勢と、より良き姿を追求し続ける不屈の精神をいいます。この実践を通じて、わたしたちを取り巻くあらゆる人々との間に強い信頼関係を築き、事業を発展させていくことで、タケダのミッションである「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」を世界で実現していくことを目指します。

ビジョン 2020

Better Health, Brighter Future

“病気に苦しむ患者さんに、人生のかけがえのない時間を少しでも取り戻していただきたい” 創業から 230 年以上にわたり、タケダはその想いのもと、革新的な新薬の創出を通じて社会に貢献してきました。そしてこれからも、世界のより多くの人々がそれぞれの人生を豊かに過ごせるよう予防から治療・治癒にわたる医療の多様なニーズに応える新しい解決方法を提供していくことが私たちタケダの使命です。

“世界の国々や地域に根を下ろし、それぞれ異なる真の医療ニーズを理解する” “つねに社会に奉仕する気持ちを忘れず、緊迫感とスピード感を持ち、どこよりも高い効率性を発揮して業界をリードする最適な答えを提供する” ダイバーシティが生きる組織の力を「Global One Takeda」として結集させ、医療の未来を変革する努力を、私たちタケダは続けていきます。

医療に対する飽くなき情熱と人々の生命に貢献するという揺るぎない信念を持ち、世界中の人々がより健康で明るく過ごせる新たな 230 年を切り拓いていきます。

・Our Business: すべては人々の健康のために

世界には、新しい医療の解決策を今か今かと持ち望んでいる人々が数多くいます。“革新的な新薬、そして高品質なブランドジェネリック医薬品、ワクチン、OTC 医薬品をお届けすることで、少しでも早く、少しでも多くの人々の願いに応えていきたい” それが私たちタケダの変わらぬ想いです。

・Our Organization: ダイバーシティを力に

世界中で働く私たちは「タケダイズム」という一つの価値観で繋がっています。同時にタケダは、一人ひとりの多様な能力や考え方を大切にしています。そうすることで世界各地の異なるニーズにこれまでにない新しい方法で応えていくことができると信じているからです。働く一人ひとりの意思決定を尊重し、迅速に行動することで、人々の Quality of Life の向上を追求し続けます。

・Our People: 情熱を原動力に

ともに働く仲間こそ、タケダの最大の財産です。私たちは、もっと成長したい、もっと人々や社会に貢献したい、という強い想いに突き動かされ、確かな自信と偏見のない公正な心で、つねに新しい目標に向かって挑戦を続けます。こうした情熱を原動力に、未来のより良い医療への変革をリードしていきます。

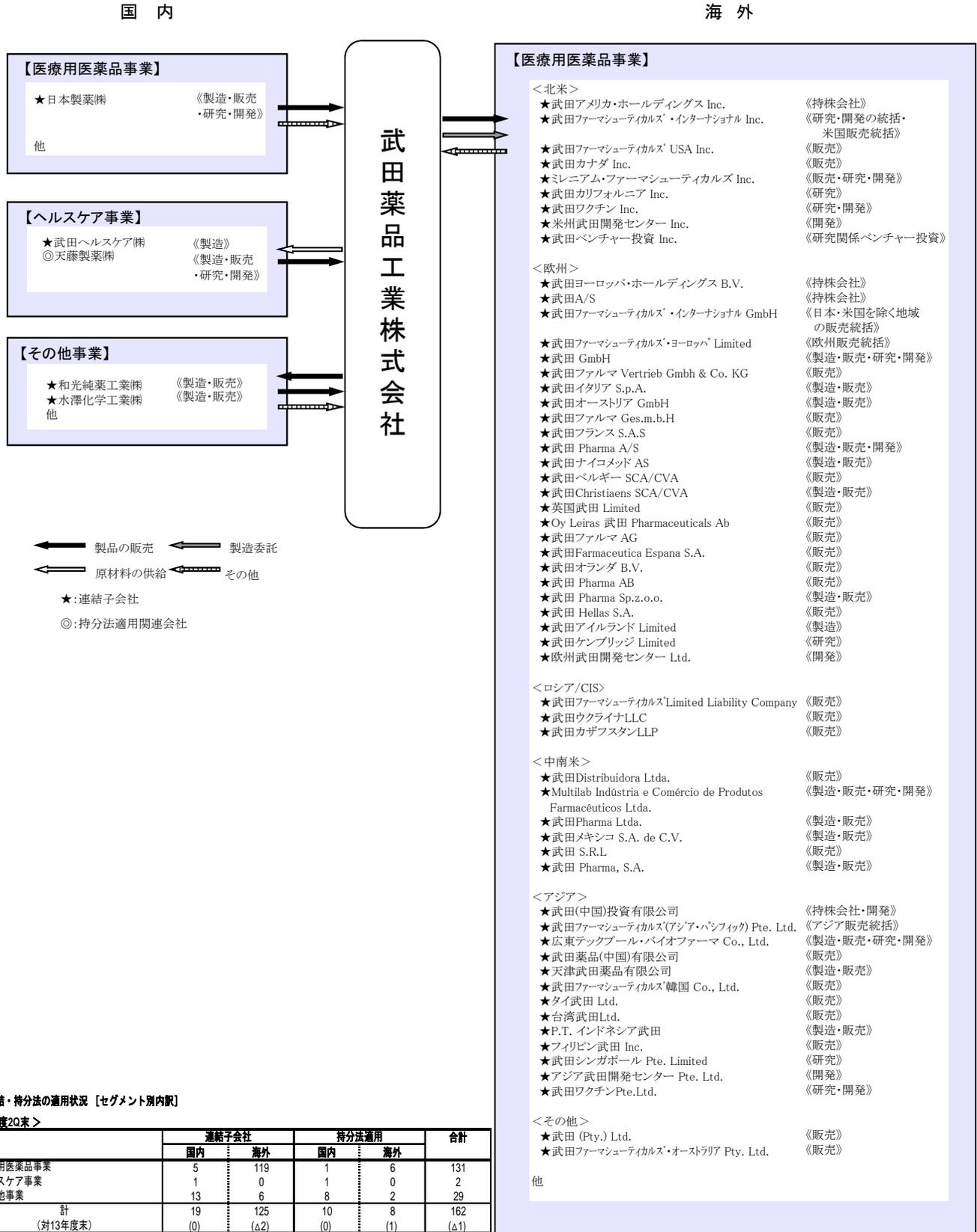
もくじ

I. 武田グループの概要	
■ 連結・持分法の適用状況	1
II. 業績の状況	
1. 業績ハイライト	2
2. 連結純損益計算書等	3
3. 売上収益・売上高の状況	4-6
◆ 地域別売上収益	
◆ 医療用医薬品売上収益	
◆ 主な連結子会社の売上収益	
◆ 医療用医薬品 グローバル主要品目売上高	
◆ 医療用医薬品 海外主要品目売上高(地域別)	
◆ 医療用医薬品 国内主要品目売上高	
◆ 一般用医薬品 主要品目売上高	
4. 連結財務状態計算書	7-8
5. 連結キャッシュ・フロー計算書	8
6. セグメント情報	9
7. 有形固定資産と無形資産の増加額、減価償却費及び償却費、減損損失	9
8. 人員の状況	10
9. 株主の状況	11
10. 主要な経営指標	12
III. パイプラインの現状	
1. 開発の状況	13-26
■ 日米欧	
■ 承認済みの化合物の剤型・効能追加	
■ 最近のステージアップ品目	
■ 開発中止品目	
■ ブラジル・中国・ロシアにおける申請・承認	
■ 開発品目の特徴	
■ ホームページで開示している臨床試験情報	
2. 研究の状況	
■ 主な共同研究活動	27

I. 武田グループの概要

当社グループは当社と連結子会社144社、持分法適用関連会社18社を合わせた163社により構成されております。

当社グループが営んでいる主な事業内容と当社グループを構成している各会社の当該事業に係る位置付けの概要及び報告セグメントとの関連は次のとおりであります。



Ⅱ. 業績の状況

1. 業績ハイライト (詳細についてはP3以降で紹介)

【連結経営成績】(億円)	12年度	13年度	14年度 見込	13年度 H1	14年度 H1	対前年	増減率
売上収益	15,570	16,917	17,250	8,281	8,514	233	2.8%
海外売上収益	8,227	9,578	10,110	4,627	4,920	294	6.3%
<率>	<52.8%>	<56.6%>	<58.6%>	<55.9%>	<57.8%>	<1.9pt>	
医療用医薬品事業売上収益	14,015	15,291	15,640	7,487	7,701	214	2.9%
研究開発費	3,213	3,416	3,500	1,559	1,565	6	0.4%
<率>	<20.6%>	<20.2%>	<20.3%>	<18.8%>	<18.4%>	<△0.4pt>	
営業利益	650	1,393	1,500	1,099	1,167	68	6.2%
<率>	<4.2%>	<8.2%>	<8.7%>	<13.3%>	<13.7%>	<0.4pt>	
税引前利益	1,331	1,589	1,400	1,202	1,131	△71	△5.9%
<率>	<8.5%>	<9.4%>	<8.1%>	<14.5%>	<13.3%>	<△1.2pt>	
当期利益	1,507	1,096		805	632	△174	△21.6%
<率>	<9.7%>	<6.5%>		<9.7%>	<7.4%>	<△2.3pt>	
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,486	1,067	850	787	614	△173	△22.0%
<率>	<9.5%>	<6.3%>	<4.9%>	<9.5%>	<7.2%>	<△2.3pt>	
Core Earnings (注)	2,855	3,142	2,800	1,820	1,693	△127	△7.0%
<率>	<18.3%>	<18.6%>	<16.2%>	<22.0%>	<19.9%>	<△2.1pt>	

(注) 営業利益から、企業買収に係る会計処理の影響や無形資産の償却費および減損などの一時的要因を排除した定常的ビジネスの利益

【連結財務状態】(億円)	12年度末	13年度末	13年度 H1末	14年度 H1末	対13年度末
資産合計	40,526	45,691		45,718	27
負債合計	17,143	20,285		20,409	124
資本合計	23,383	25,406		25,309	△97
親会社の所有者に帰属する持分	22,741	24,707		24,639	△69
親会社所有者帰属持分比率	56.1%	54.1%		53.9%	△0.2pt

【株式の状況】	12年度末	13年度末	13年度 H1末	14年度 H1末
期末発行済株式総数(千株)	789,666	789,681	789,681	789,735
自己株式数(千株)	206	213	209	4,028
期末株価(円)	5,030	4,892	4,635	4,768
株式時価総額(億円)	39,720	38,631	36,602	37,655

【ROE・EPS・配当の状況】(円)	12年度	13年度	13年度 H1	14年度 H1	対前年
親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)	6.8%	4.5%		5.0%	
基本的1株当たり当期利益(Basic EPS)	188.21	135.10	99.75	78.07	△21.67
1株当たり配当金	180.00	180.00	90.00	90.00	—
配当性向	95.6%	133.2%	90.2%	115.3%	25.0pt

【為替レート】(円)	12年度	13年度	14年度 前提	13年度 H1	14年度 H1
ドル 年間平均レート(4-3月)	82	100	105	98	102
ユーロ 年間平均レート(4-3月)	106	133	140	128	139

2. 連結純損益計算書等

				(億円)			
	12年度	13年度	14年度 見込	13年度 H1	14年度 H1	対前年	増減率
売上収益	15,570	16,917	17,250	8,281	8,514	233	2.8%
知的財産権収益	452	774		375	285	△90	△23.9%
売上原価	4,638	4,903		2,381	2,470	89	3.8%
<率>	<29.8%>	<29.0%>		<28.7%>	<29.0%>	<0.3pt>	
売上総利益	10,932	12,014		5,900	6,044	144	2.4%
<率>	<70.2%>	<71.0%>		<71.3%>	<71.0%>	<△0.3pt>	
販売費及び一般管理費	5,129	5,562		2,606	2,831	226	8.7%
<率>	<32.9%>	<32.9%>		<31.5%>	<33.3%>	<1.8pt>	
宣伝費及び販売促進費	862	1,053		486	526	39	8.1%
人件費	2,085	2,287		1,089	1,136	47	4.3%
研究開発費	3,213	3,416	3,500	1,559	1,565	6	0.4%
<率>	<20.6%>	<20.2%>	<20.3%>	<18.8%>	<18.4%>	<△0.4pt>	
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	1,738	1,432		586	632	46	7.8%
その他の営業収益	241	239		111	387	277	-
補助金収入	29	26		13	16	3	25.8%
賃貸収入	47	43		22	20	△2	△10.6%
売却目的保有資産の売却益	41	66		-	254	254	-
譲渡事業に係るロイヤリティ収入	43	47		42	64	22	53.1%
その他	81	56		34	34	△0	△0.7%
その他の営業費用	443	450		161	235	74	46.4%
賃貸収入に付随して発生した直接的な費用	23	50		25	12	△13	△50.9%
寄付金	28	32		6	8	1	19.1%
事業構造再編費用（注）	252	217		100	139	39	39.0%
その他	139	151		29	76	47	164.4%
営業利益	650	1,393	1,500	1,099	1,167	68	6.2%
<率>	<4.2%>	<8.2%>	<8.7%>	<13.3%>	<13.7%>	<0.4pt>	
金融収益	877	493		222	101	△121	△54.4%
受取利息	12	14		4	10	5	121.0%
受取配当金	40	33		18	16	△2	△12.4%
売却可能金融資産売却益	563	405		181	33	△148	△81.6%
為替差益(デリバティブ評価益を含む)	111	41		18	40	22	126.6%
法人所得税等還付加算金	151	-		-	-	-	-
その他	1	0		0	2	2	-
金融費用	205	307		124	147	24	19.2%
支払利息	34	49		21	28	6	29.8%
条件付対価に係る公正価値変動額	65	110		52	81	29	54.6%
売却可能金融資産減損損失	9	8		3	8	4	121.0%
為替差損(デリバティブ評価損を含む)	67	118		39	-	△39	-
その他	29	23		7	31	24	-
持分法による投資利益	9	10		5	11	6	121.6%
税引前当期利益	1,331	1,589	1,400	1,202	1,131	△71	△5.9%
法人所得税費用	△176	493		397	500	103	25.9%
当期利益	1,507	1,096		805	632	△174	△21.6%
<率>	<9.7%>	<6.5%>		<9.7%>	<7.4%>	<△2.3pt>	
親会社の所有者持分	1,486	1,067	850	787	614	△173	△22.0%
<率>	<9.5%>	<6.3%>	<4.9%>	<9.5%>	<7.2%>	<△2.3pt>	
当期包括利益合計	3,233	3,437		2,141	780	△1,361	△63.5%
<率>	<20.8%>	<20.3%>		<25.9%>	<9.2%>	<△16.7pt>	
親会社の所有者持分	3,188	3,392		2,117	752	△1,365	△64.5%
<率>	<20.5%>	<20.0%>		<25.6%>	<8.8%>	<△16.7pt>	
実効税率							
国内の法定実効税率	38.0%	38.0%		38.0%	35.6%	△2.4pt	
連結純損益計算書上の税率	△13.2%	31.0%		33.0%	44.2%	11.2pt	

(注)効率的な事業運営体制の構築に向けた、従業員の削減や事業拠点の統廃合をはじめとする取り組みにかかる費用を事業構造再編費用として計上している。
 主な内訳は削減対象の従業員に係る早期退職関連費用である。

3. 売上収益・売上高の状況

◆地域別売上収益

		(億円)				
	12年度	13年度	13年度 H1	14年度 H1	対前年	増減率
売上収益合計	15,570	16,917	8,281	8,514	233	2.8%
国内	7,343	7,339	3,654	3,593	△61	△1.7%
海外	8,227	9,578	4,627	4,920	294	6.3%
<海外売上収益比率>	<52.8%>	<56.6%>	<55.9%>	<57.8%>	<1.9pt>	
北米	3,605	3,745	1,802	1,976	174	9.7%
<同比率>	<23.2%>	<22.1%>	<21.8%>	<23.2%>	<1.5pt>	
[うち米国]	[3,438]	[3,521]	[1,690]	[1,858]	[168]	[9.9%]
欧州	2,465	2,975	1,479	1,448	△31	△2.1%
<同比率>	<15.8%>	<17.6%>	<17.9%>	<17.0%>	<△0.9pt>	
ロシア/CIS	683	896	413	380	△33	△7.9%
<同比率>	<4.4%>	<5.3%>	<5.0%>	<4.5%>	<△0.5pt>	
中南米	629	812	382	412	30	7.8%
<同比率>	<4.0%>	<4.8%>	<4.6%>	<4.8%>	<0.2pt>	
アジア	601	854	403	512	109	27.1%
<同比率>	<3.9%>	<5.0%>	<4.9%>	<6.0%>	<1.2pt>	
その他	243	295	148	192	44	29.6%
<同比率>	<1.6%>	<1.7%>	<1.8%>	<2.3%>	<0.5pt>	
うち知的財産権収益	452	774	375	285	△90	△23.9%
うち医療用医薬品事業	448	773	375	285	△90	△23.9%
国内	4	2	1	29	28	-
海外	444	771	374	256	△117	△31.4%

(注1)売上収益は、顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

(注2)「その他」には、中東・大洋州・アフリカが含まれている。

◆医療用医薬品売上収益

		(億円)				
	12年度	13年度	13年度 H1	14年度 H1	対前年	増減率
国内製商品売上高	5,869	5,800	2,900	2,794	△106	△3.6%
海外製商品売上高	7,638	8,633	4,173	4,546	373	8.9%
北米	3,432	3,408	1,660	1,854	194	11.7%
[うち米国]	[3,268]	[3,189]	[1,552]	[1,747]	[195]	[12.6%]
欧州	2,116	2,438	1,199	1,285	86	7.1%
ロシア/CIS	683	895	413	376	△36	△8.8%
中南米	623	806	378	392	14	3.7%
アジア	555	805	381	470	88	23.2%
その他	229	281	142	168	26	18.4%
知的財産権収益・役務収益	508	858	415	362	△53	△12.8%
国内	13	21	10	38	28	-
海外	495	837	405	323	△81	△20.1%
医療用医薬品売上収益 合計	14,015	15,291	7,487	7,701	214	2.9%
海外医療用医薬品売上収益比率	58.0%	61.9%	61.1%	63.2%	2.1pt	

(注1)売上収益は、顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

(注2)「その他」には、中東・大洋州・アフリカが含まれている。

◆主な連結子会社の売上収益(注)

		(億円)				
	12年度	13年度	13年度 H1	14年度 H1	対前年	増減率
武田ファーマシューティカルズUSA Inc.	2,349	2,130	1,014	1,159	145	14.3%
[百万ドル]	[2,856]	[2,126]	[1,033]	[1,132]	[99]	[9.5%]
ミレニアム・ファーマシューティカルズ Inc.	1,084	1,443	703	768	65	9.3%
[百万ドル]	[1,318]	[1,440]	[716]	[749]	[33]	[4.6%]
和光純薬工業(株)	603	608	317	331	14	4.5%

(注)武田グループ外への外部顧客に対する売上収益を表示している。

◆医療用医薬品 グローバル主要品目売上高

(億円)

品目	12年度	13年度*	14年度 見込*	13年度 H1*	14年度 H1*	対前年	増減率
ベルケイド	729	1,313	1,410	642	728	86	13.3%
カンデサルタン	1,696	1,571	1,180	834	725	△110	△13.1%
リュープロレリン	1,165	1,268	1,210	654	613	△41	△6.2%
パントプラゾール	780	1,037	910	482	506	24	4.9%
ランソプラゾール	1,102	1,197	910	607	501	△106	△17.4%
コルクリス	336	519	610	257	298	40	15.7%
デクスラント	327	503	570	236	272	36	15.3%
ネシーナ	378	404	455	184	219	35	19.0%
ピオグリタゾン	1,229	368	340	201	183	△18	△8.9%
ユーロリック	177	269	315	125	141	16	13.1%
アミティーザ	223	257	280	120	139	19	15.8%
アドセトリス	45	136	205	61	117	55	90.8%
カルシウム	154	197	220	90	99	9	10.3%
アクトベジン	196	264	255	125	99	△26	△21.1%
タコシール	132	170	185	81	85	4	5.0%

* 13年度実績および14年度見込、13年度H1および14年度H2は、知的財産権収益および役務収益を含めて表示している。

◆医療用医薬品 海外主要品目売上高(地域別)

(億円)

	12年度	13年度*	14年度 見込*	13年度 H1*	14年度 H1*	対前年	増減率
カンデサルタン							
北米・中南米・欧州・ロシア/CIS・アジア・その他	356	313	230	178	162	△16	△8.9%
リュープロレリン							
北米・中南米	149	183	160	101	83	△18	△17.7%
欧州・ロシア/CIS	278	340	365	164	174	10	6.0%
アジア・その他	78	101	110	51	59	8	15.5%
ランソプラゾール							
北米・中南米	245	308	165	147	122	△25	△16.7%
欧州・ロシア/CIS	105	130	115	65	58	△8	△11.8%
アジア・その他	61	83	90	43	47	4	8.1%
パントプラゾール							
北米・中南米	289	400	255	174	141	△33	△18.9%
欧州・ロシア/CIS	299	365	375	178	195	17	9.7%
アジア・その他	192	272	280	130	169	39	30.1%
ピオグリタゾン							
北米・中南米	909	62	95	48	52	4	7.3%
欧州・ロシア/CIS	82	79	75	37	38	1	2.5%
アジア・その他	47	71	60	32	35	3	9.0%

(注1) 上表には、「北米・中南米」、「欧州・ロシア/CIS」、「アジア・その他」の各地域で販売している主要品目を掲載している。

なお、「アジア・その他」には日本における売上高は含まれていない。

(注2) カンデサルタンは、ライセンス先への輸出売上高を単一ルートで計上しているため、「北米・中南米・欧州・ロシア/CIS・アジア・その他」の1区分で表示している。

* 13年度実績および14年度見込、13年度H1および14年度H1は、知的財産権収益および役務収益を含めて表示している。

◆ 医療用医薬品 国内主要品目売上高

(億円)

品目	発売年月	薬効区分	12年度	13年度	14年度見込 (注2)	13年度 H1	14年度 H1	対前年	増減率
プロプレス ^(注1) (カンデサルタン)	(99. 6)	高血圧症 治療剤	1,340	1,258	950	656	562	△94	△14.3%
リュープリン (リュープロレリン)	(92. 9)	前立腺癌・乳癌・ 子宮内膜症治療 剤	660	645	575	338	297	△41	△12.0%
タケブロン ^(注1) (ランソプラゾール)	(92.12)	消化性潰瘍 治療剤	691	676	540	351	275	△77	△21.9%
エンブレル	(05. 3)	抗リウマチ剤	432	454		225	204	△21	△9.4%
アジルバ ^(注1)	(12. 5)	高血圧症治療剤	34	253	490	80	203	124	155.9%
ネシーナ ^(注1)	(10. 6)	糖尿病治療剤	378	380	395	179	196	17	9.7%
ベクティピックス	(10. 6)	抗悪性腫瘍剤	188	194	185	96	92	△3	△3.5%
レミニール	(11. 3)	アルツハイマー型 認知症治療剤	84	123		57	64	7	12.4%
ベイスン	(94. 9)	糖尿病治療剤	193	161	125	86	60	△26	△30.0%
アクトス (ピオグリタゾン)	(99.12)	糖尿病治療剤	191	155	110	83	58	△25	△30.2%
ベネット	(02. 5)	骨粗鬆症治療剤	133	116	95	60	53	△7	△11.6%
ロトリガ	(13. 1)	高脂血症 治療剤	11	52	120	18	50	32	180.6%
ロゼレム	(10. 7)	不眠症治療剤	45	60	80	28	32	3	12.2%

(注1) 配合剤などを含む。

(注2) 14年度見込みについては、アライアンス先の開示方針により一部非開示としている。

◆ 一般用医薬品 主要品目売上高

(億円)

	12年度	13年度	14年度 見込	13年度 H1	14年度 H1	対前年	増減率
アリナミン錠剤類	157	196	179	94	99	5	5.6%
アリナミンドリンク類	143	151	147	83	84	0	0.4%
ベンザ類	97	104	107	60	59	△1	△0
ピオフェルミン類	81	84	84	41	41	△0	△1.0%
ボラギノール類	43	44	42	20	19	△1	△5.0%

4. 連結財務状態計算書

<資産>	(億円)				
	12年度末	13年度末	14年度 H1末	構成比	対13年度末
非流動資産	28,212	29,766	29,382	64.3%	△384
有形固定資産	5,468	5,423	5,353	11.7%	△70
取得原価	11,090	11,677	11,768		91
減価償却累計額及び減損損失累計額	△5,622	△6,254	△6,415		△161
のれん	7,140	8,147	8,215	18.0%	68
無形資産	10,958	11,356	10,992	24.0%	△364
投資不動産	367	321	304	0.7%	△17
持分法で会計処理されている投資	92	100	105	0.2%	5
その他の金融資産	2,118	1,928	2,045	4.5%	117
売却可能金融資産	1,603	1,416	1,379		△37
その他の非流動資産	275	408	391	0.9%	△17
前払年金費用	233	358	356		△2
繰延税金資産	1,794	2,084	1,977	4.3%	△107
流動資産	12,314	15,925	16,336	35.7%	411
棚卸資産	2,293	2,543	2,774	6.1%	231
売上債権及びその他の債権	3,750	4,306	4,552	10.0%	246
その他の金融資産	162	1,850	1,599	3.5%	△251
未収法人所得税等	120	120	65	0.1%	△55
その他の流動資産	493	435	513	1.1%	78
現金及び現金同等物	5,456	6,660	6,815	14.9%	154
売却目的で保有する資産	40	10	17	0.0%	7
資産合計	40,526	45,691	45,718	100.0%	27

<負債及び資本>

(億円)

	12年度末	13年度末	14年度 H1末	構成比	対13年度末
負債合計	17,143	20,285	20,409	44.6%	124
非流動負債	10,804	12,258	12,617	27.6%	360
社債	4,713	4,633	4,735	10.4%	102
長期借入金	1,113	2,413	2,413	5.3%	-
その他の金融負債	964	1,101	1,169	2.6%	68
退職給付に係る負債	666	765	832	1.8%	67
引当金	218	144	125	0.3%	△19
その他の非流動負債	411	396	682	1.5%	286
繰延税金負債	2,718	2,806	2,662	5.8%	△144
流動負債	6,338	8,028	7,792	17.0%	△236
社債	-	1,541	1,642	3.6%	100
短期借入金	19	13	12	0.0%	△1
仕入債務及びその他の債務	1,699	1,849	1,552	3.4%	△297
その他の金融負債	386	488	514	1.1%	26
未払法人所得税	1,294	523	801	1.8%	278
引当金	1,008	1,253	1,275	2.8%	22
その他の流動負債	1,933	2,360	1,995	4.4%	△364
資本合計	23,383	25,406	25,309	55.4%	△97
資本金	635	636	637		1
資本剰余金	403	399	542		143
自己株式	△6	△6	△182		△176
利益剰余金	19,278	19,013	18,792		△221
その他の資本の構成要素	2,431	4,666	4,850		184
親会社の所有者に帰属する持分	22,741	24,707	24,639		△69
非支配持分	642	699	671		△28
負債及び資本合計	40,526	45,691	45,718	100.0%	27

5. 連結キャッシュフロー計算書

(億円)

	12年度	13年度	13年度 H1	14年度 H1	対前年
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,326	1,483	△9	847	856
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,311	△1,586	△145	255	400
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,522	1,014	1,731	△1,061	△2,792
現金及び現金同等物の増減額	493	912	1,577	40	△1,536
現金及び現金同等物期首残高	4,542	5,456	5,456	6,660	1,205
現金及び現金同等物に係る換算差額	420	293	144	114	△30
現金及び現金同等物期末残高	5,456	6,660	7,177	6,815	△362

6. セグメント情報

			(億円)			
	12年度	13年度	13年度 H1	14年度 H1	対前年	増減率
売上収益	15,570	16,917	8,281	8,514	233	2.8%
医療用医薬品事業	14,015	15,291	7,487	7,701	214	2.9%
国内	5,882	5,821	2,910	2,832	△77	△2.7%
海外	8,133	9,470	4,578	4,869	291	6.4%
ヘルスケア事業	669	729	367	377	9	2.6%
その他事業	930	938	426	436	10	2.2%
調整額	△44	△40				
営業利益	650	1,393	1,099	1,167	68	6.2%
医療用医薬品事業	341	1,121	914	804	△110	△12.1%
<率>	<2.4%>	<7.3%>	<12.2%>	< 10.4% >	<△1.8pt>	
ヘルスケア事業	129	164	105	113	8	7.8%
<率>	<19.3%>	<22.5%>	<28.5%>	< 30.0% >	<1.4pt>	
その他事業	179	108	81	250	170	-
<率>	<19.3%>	<11.5%>	<18.9%>	< 57.5% >	<38.6pt>	
調整額	1	△0				

7. 有形固定資産と無形資産の増加額、減価償却費及び償却費、減損損失

			(億円)			
	12年度	13年度	13年度 H1	14年度 H1	対前年	増減率
有形固定資産及び無形資産 の増加額						
有形固定資産の増加額*	723	439	190	265	75	39.3%
無形資産の増加額**	1,944	600	295	219	△76	△25.8%
減価償却費及び償却費	1,762	1,882	920	965	45	4.9%
うち、製品に係る償却費	1,122	1,201	586	620	34	5.8%
減損損失	710	275	-	12	12	-
うち、製品に係る減損損失	624	231	-	12	12	-

* 企業買収に伴う増加額は含まない。

** 企業買収による増加額(のれん含む)を含む。

8. 人員の状況

	12年度末	13年度末	14年度 H1末	構成比	対13年度末
連結人員 合計 (①-②)+③	30,481	31,225	31,815	100.0%	590
(うち海外)	(20,956)	(21,671)	(22,277)	(70.0%)	(606)
医療用医薬品事業	27,947	28,672	29,206	91.8%	534
ヘルスケア事業	450	461	477	1.5%	16
その他事業	2,084	2,092	2,132	6.7%	40
武田薬品単体(在籍人員) ①	6,671	6,716	6,838		122
出向/出向受入 ②	127	138	104		△34
武田薬品単体(就業人員) ①-②	6,544	6,578	6,734	21.2%	156
連結子会社 ③	23,937	24,647	25,081	78.8%	434

(注)工数換算ベースの就業人員数である。

9. 株主の状況

【所有者別】

		12年度末	13年度末	14年度 H1末	対13年度末
金融機関	株主数(名)	311	313	297	△16
	株式数(千株)	250,440	235,354	231,394	△3,960
	構成比(%)	31.71	29.80	29.30	△0.50
金融商品取引業者	株主数(名)	59	67	57	△10
	株式数(千株)	37,273	38,582	45,321	6,739
	構成比(%)	4.72	4.88	5.74	0.86
その他の法人	株主数(名)	1,772	1,890	1,781	△109
	株式数(千株)	41,596	41,626	42,903	1,276
	構成比(%)	5.27	5.27	5.43	0.16
外国法人等	株主数(名)	861	883	913	30
	株式数(千株)	221,281	223,377	224,306	930
	構成比(%)	28.02	28.29	28.40	0.12
個人・その他	株主数(名)	275,841	305,206	304,352	△854
	株式数(千株)	238,953	250,612	245,679	△4,933
	構成比(%)	30.26	31.74	31.11	△0.63
当社	株式数(千株)	123	130	133	2
	構成比(%)	0.02	0.02	0.02	0.00

【所有株数別】

		12年度末	13年度末	14年度 H1末	対13年度末
500万株以上	株主数(名)	25	21	23	2
	株式数(千株)	300,172	267,568	278,274	10,706
	構成比(%)	38.01	33.88	35.24	1.35
100万株以上	株主数(名)	79	91	82	△9
	株式数(千株)	176,679	203,000	189,652	△13,348
	構成比(%)	22.37	25.71	24.01	△1.69
10万株以上	株主数(名)	288	273	284	11
	株式数(千株)	92,399	85,950	91,422	5,472
	構成比(%)	11.70	10.88	11.58	0.69
1万株以上	株主数(名)	2,373	2,472	2,441	△31
	株式数(千株)	49,309	50,889	50,742	△147
	構成比(%)	6.25	6.46	6.43	△0.03
1000株以上	株主数(名)	60,392	63,080	61,712	△1,368
	株式数(千株)	120,618	126,265	123,907	△2,358
	構成比(%)	15.28	16.00	15.69	△0.31
100株以上	株主数(名)	206,147	232,953	233,418	465
	株式数(千株)	50,234	55,762	55,493	△269
	構成比(%)	6.36	7.06	7.03	△0.03
100株未満	株主数(名)	9,541	9,470	9,441	△29
	株式数(千株)	255	247	246	△1
	構成比(%)	0.03	0.03	0.03	△0.00
合計	株主数(名)	278,845	308,360	307,401	△959
	株式数(千株)	789,666	789,681	789,735	55

【大株主の状況】

順位	株主名	14年度 H1末		対13年度末増減	
		構成比		(前期順位)	
		千株	%	千株	
1	日本生命保険(相)	50,760	6.43	△2,820	(1)
2	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	30,841	3.91	△1,887	(2)
3	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	27,771	3.52	△2,116	(3)
4	公益財団法人武田科学振興財団	17,912	2.27	-	(4)
5	ハーケリス証券会社	15,000	1.90	-	(5)
6	ステートストリートハンクアントラストカンパニー-505225	10,004	1.27	422	(7)
7	ステートストリートハンクウェストクライアントリーター	9,537	1.21	221	(8)
8	ジェービー・モルガンチェスバンク385147	9,210	1.17	4,058	(20)
9	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口1)	8,281	1.05	345	(13)
10	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口6)	8,255	1.05	76	(9)

10. 主要な経営指標

	12年度	13年度	13年度 H1	14年度 H1
[成長性]				
売上伸長率(%)		8.6		2.8
営業利益伸長率(%)		114.3		6.2
当期利益伸長率(%) (注1)		△28.2		△22.0
[収益性]				
売上総利益率(%)	70.2	71.0	71.3	71.0
売上営業利益率(%)	4.2	8.2	13.3	13.7
売上当期利益率(%) (注1)	9.5	6.3	9.5	7.2
総資産当期利益率(%) (注1)	3.9	2.5		2.7
親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE、%)	6.8	4.5		5.0
[安定性]				
親会社所有者帰属持分比率(%)	56.1	54.1		53.9
流動比率(%)	194.3	198.4		209.7
非流動資産対長期資本比率(%) (注1)	84.1	80.5		78.9
[効率性]				
総資本回転率(回)	0.38	0.37		0.37
固定資産回転率(回)	0.55	0.57		0.58
売上債権回転率(回)	4.50	4.45		4.10
[その他]				
研究開発費比率(%)	20.6	20.2	18.8	18.4
1株当たり親会社所有者帰属持分(円)	2,881	3,130		3,136
基本的1株当たり当期利益(EPS、円) (注1)	188.21	135.10	99.75	78.07
EPS成長率(%)		△28.2		△21.7
配当性向(%)	95.6	133.2	90.2	115.3
親会社所有者帰属持分配当率(DOE、%)	6.5	6.0		5.7

(注1) 指標は親会社の所有者に帰属する金額を用いて算定している。

(注2) 売上債権回転率については、期末休日要因を排除している。

Ⅲ. パイプラインの現状

1. 開発の状況

この表では当社が明確に効能取得をターゲットとしている主な効能を掲載しています。これらの効能以外においても、将来の効能追加の可能性を検討するために臨床試験を行っています。

■ 日米欧

開発コード／製品名 ＜一般名＞	薬効(剤形)	適応症	開発段階	自社品/導入品
MLN0002 ＜vedolizumab＞	ヒト化抗 $\alpha 4\beta 7$ インテグリン モノクローナル抗体 (注射剤)	潰瘍性大腸炎	米国 承認(14/5) 欧州 承認(14/5) 日本 P-III	自社品
		クローン病	米国 承認(14/5) 欧州 承認(14/5) 日本 P-III	
		皮下投与製剤	— P-I	
Contrave® ＜naltrexone XR /bupropion XR＞	μ オピオイド受容体拮抗薬・ ドーパミン/ノルエピネフリン 再取込阻害薬 (経口剤)	肥満症	米国 承認(14/9)	導入品 (Orexigen 社)
＜fomepizole＞	アルコール脱水素酵素阻害薬 (注射剤)	エチレングリコールおよびメタノール中毒	日本 承認(14/9)	導入品 (Paladin Labs 社)
TAK-438 ＜vonoprazan＞	カリウムイオン競合型アシッド ブロック (経口剤)	酸関連疾患 (胃食道逆流症、消化性潰瘍等)	日本 申請(14/2)	自社品
SYR-472 ＜trelagliptin＞	DPP-4 阻害薬 (経口剤)	2 型糖尿病	日本 申請(14/3)	自社品
TAK-816	Hib ワクチン (注射剤)	Hib 感染症予防	日本 申請(13/9)	導入品 (Novartis 社)
MLN9708 ＜ixazomib＞	プロテアソーム阻害薬 (経口剤)	未治療の多発性骨髄腫	米国 P-III 欧州 P-III 日本 P-III	自社品
		再発・難治性の多発性骨髄腫	米国 P-III 欧州 P-III 日本 P-III	
		再発・難治性の原発性 AL アミロイドーシス	米国 P-III 欧州 P-III	
		自家造血幹細胞移植後における多発性骨 髄腫の維持療法	米国 P-III 欧州 P-III	
MLN8237 ＜alisertib＞	オーロラ A キナーゼ阻害薬 (経口剤)	再発・難治性の末梢 T 細胞リンパ腫	米国 P-III 欧州 P-III	自社品
		小細胞肺がん、卵巣がん	米国 P-II 欧州 P-II	
		非ホジキンリンパ腫	日本 P-I	
		固形がん	日本 P-I	
Lu AA21004 ＜vortioxetine＞	多重作用メカニズム型抗うつ薬 (経口剤)	大うつ病	日本 P-III	導入品 (Lundbeck 社)
		全般性不安障害	米国 P-III	
＜motesanib diphosphate＞	VEGFR1-3, PDGFR, c-Kit 阻害薬 (経口剤)	進行性非扁平上皮型非小細胞肺がん	日本 P-III	導入品 (Amgen 社)
AMG 386 ＜trebananib＞	アンジオポエチン阻害 ペプチボディ(注射剤)	卵巣がん	日本 P-III	導入品 (Amgen 社)
MLN0264 ＜-＞	抗 GCC 抗体薬物複合体 (注射剤)	胃がん、膵臓がん	米国 P-II 欧州 P-II	自社品
TAK-385 ＜relugolix＞	LH-RH アンタゴニスト (経口剤)	子宮内膜症	日本 P-II	自社品
		子宮筋腫	日本 P-II	
		前立腺がん	米国 P-II 欧州 P-II	
			日本 P-I	

開発コード／製品名 〈一般名〉	薬効(剤形)	適応症	開発段階	自社品/導入品
MLN0128 〈-〉	mTORC1/2 阻害薬 (経口剤)	乳がん 固形がん	米国 P-II 欧州 P-II — P-I	自社品
TAK-003*1	4 価 Dengue 熱ワクチン (注射剤)	Dengue 熱の予防	— P-II	自社品
Norovirus vaccine	ノロウイルスワクチン (注射剤)	ノロウイルスによる急性胃腸炎の予防	— P-II	自社品
TAK-114*2	炎症性サイトカイン抑制薬 (経口剤)	潰瘍性大腸炎	米国 P-II 欧州 P-II 日本 P-I	導入品 (Natrogen 社)
TAK-361S	4 種混合ワクチン (注射剤)	百日せき、ジフテリア、破傷風、ポリオによる 感染症の予防	日本 P-II	導入品 (阪大微生物病研究会)
MT203 〈namilumab〉	GM-CSF モノクローナル抗体 (注射剤)	乾癬 関節リウマチ	欧州 P-II 欧州 P-I	導入品 (Amgen 社)
TAK-850	インフルエンザワクチン (注射剤)	インフルエンザウイルスの A 亜型および B 亜型 によるインフルエンザの予防	日本 P-I/II	導入品 (Baxter 社)
TAK-733 〈-〉	MEK 阻害薬 (経口剤)	固形がん	— P-I	自社品
TAK-272 〈-〉	直接的レニン阻害薬 (経口剤)	高血圧症	— P-I	自社品
TAK-063 〈-〉	PDE10A 阻害薬 (経口剤)	統合失調症	— P-I	自社品
TAK-137 〈-〉	AMPA 受容体 ポテンシエーター(経口剤)	精神疾患、神経疾患	— P-I	自社品
TAK-659 〈-〉	SYK キナーゼ阻害薬(経口剤)	固形がん、血液がん	— P-I	自社品
TAK-233 〈-〉	(経口剤)	-	— P-I	自社品
TAK-935 〈-〉	CH24H 阻害薬(経口剤)	グルタミン酸興奮毒性に関連する疾患	— P-I	自社品
TAK-058 〈-〉	5-HT3 受容体アンタゴニスト (経口剤)	統合失調症、特に統合失調症に伴う 認知機能障害	— P-I	自社品
TAK-079 〈-〉	細胞溶解性モノクローナル 抗体(注射剤)	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス	— P-I	自社品
INV21	EV71 ワクチン (注射剤)	エンテロウイルス 71 により発症する 手足口病の予防	— P-I	自社品
MLN3126 〈-〉	CCR9 アンタゴニスト(経口剤)	シェーグレン症候群	— P-I	自社品
MLN4924 〈-〉	NEDD8 活性化酵素阻害薬 (注射剤)	進行性がん、急性骨髄性白血病	— P-I	自社品
MLN1117 〈-〉	PI3K α アイソフォーム阻害薬 (経口剤)	固形がん	— P-I	自社品
MLN7243 〈-〉	ユビキチン活性化酵素阻害薬 (注射剤)	固形がん	— P-I	自社品
MLN2480 〈-〉	pan-Raf キナーゼ阻害薬 (経口剤)	固形がん	— P-I	導入品 (Sunesis 社)
ITI-214 〈-〉	PDE1 阻害薬 (経口剤)	統合失調症に伴う認知機能障害	— P-I	導入品 (Intra-Cellular 社)

*1 旧名: DENVax

*2 旧名: Natura-alpha

開発コード／製品名 <一般名>	薬効(剤形)	適応症	開発段階	自社品/導入品
Lu AA24530 <->	多重作用メカニズム型抗うつ薬 (経口剤)	大うつ病、全般性不安障害	米国 P-I 日本 P-I	導入品 (Lundbeck 社)
AMG 403 <fulranumab>	ヒト型抗ヒト神経成長因子 (NGF) モノクローナル抗体(注射剤)	疼痛	日本 P-I	導入品 (Amgen 社)
<rasagiline>	モノアミン酸化酵素 B (MAO-B) 阻害薬(経口剤)	パーキンソン病	日本 P-I	導入品 (Teva 社)

■ 承認済みの化合物の剤型・効能追加

開発コード <一般名> 製品名(国・地域)	薬効	適応症/剤型	開発段階	自社品/導入品
<bortezomib> VELCADE®(米国)	プロテアソーム阻害薬	多発性骨髄腫の再治療 マンデル細胞リンパ腫(フロントライン適応) 再発性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫	米国 承認(14/8) 米国 承認(14/10) 米国 P-III	自社品
TAP-144-SR <leuprorelin acetate> リュープリン®(日本) LUPRON DEPOT®(米国) ENANTONE®ほか(欧州)	LH-RH アゴニスト	前立腺がん、閉経前乳がん (6ヶ月製剤)	日本 申請(14/9)	自社品
<ferumoxytol> RIENSO®(欧州) FERAHEME®(カナダ)	静注用鉄欠乏性貧血治療薬	経口鉄剤を服用できないもしくは 経口鉄剤による治療が有効でない 患者におけるあらゆる原因の鉄欠乏性貧血	欧州 申請(13/6)	導入品 (AMAG 社)
TAK-375SL <ramelteon> ロゼレム®(米国、日本)	MT ₁ /MT ₂ 受容体作動薬	双極性障害(舌下剤)	米国 P-III	自社品
SYR-322 <alogliptin> ネシーナ®(米国、日本) VIPIDIA®(欧州)	DPP-4 阻害薬	2 型糖尿病(メトホルミンとの合剤)	日本 P-III	自社品
AD-4833/TOMM40	インスリン抵抗性改善薬/ バイオマーカー	アルツハイマー病に起因する 軽度認知機能障害の発症遅延	米国 P-III 欧州 P-III	導入品 (Zinfandel 社)
SGN-35 <brentuximab vedotin> ADCETRIS®(欧州、日本)	CD30 モノクローナル抗体薬物 複合体	再発性皮膚 T 細胞性リンパ腫 自家造血幹細胞移植後のホジキンリンパ腫 ホジキンリンパ腫(フロントライン適応) 成熟型 T 細胞性リンパ腫(フロントライン適応)	欧州 P-III 欧州 P-III 日本 P-III 欧州 P-III 日本 P-III	導入品 (Seattle Genetics 社)
<lubiprostone> AMITIZA®(米国)	クロライドチャネル開口薬	液剤 小児機能性便秘症	米国 P-III 米国 P-III	導入品 (Sucampo 社)
<febuxostat XR> ULORIC®(米国)	非プリン型選択的キサンチンオキシ ダーゼ阻害薬	徐放製剤	米国 P-III	導入品 (帝人)
<lurasidone hydrochloride> LATUDA®(欧州)	非定型抗精神病薬	双極性障害	欧州 P-III	導入品 (大日本住友製薬)
TAK-390MROD <dexlansoprazole> DEXILANT®(米国)	プロトンポンプ阻害薬	口腔内崩壊錠	— P-I	自社品

■ 最近のステージアップ品目 ※2013 年度決算開示(2014 年 5 月 8 日)以降の変更点

開発コード <一般名>	効能	国/地域	ステージ
MLN0002 <vedolizumab>	潰瘍性大腸炎	米国	承認(14/5)
MLN0002 <vedolizumab>	クローン病	米国	承認(14/5)
MLN0002 <vedolizumab>	潰瘍性大腸炎	欧州	承認(14/5)
MLN0002 <vedolizumab>	クローン病	欧州	承認(14/5)
MLN9708 <ixazomib>	自家造血幹細胞移植後における多発性骨髄腫の維持療法	米国、欧州	P-III
SYR-322 <alogliptin>	2 型糖尿病(メホルミンとの合剤)	日本	P-III
MLN0264 <->	胃がん、膵臓がん	米国、欧州	P-II
MLN0002 <vedolizumab>	皮下投与製剤	-	P-I
TAK-935 <->	グルタミン酸興奮毒性に関連する疾患	-	P-I
TAK-058 <->	統合失調症、特に統合失調症に伴う認知機能障害	-	P-I
<bortezomib>	多発性骨髄腫の再治療	米国	承認(14/8)
Contrave® <naltrexone XR / bupropion XR>	肥満症	米国	承認(14/9)
<fomepizole>	エチレングリコールおよびメタノール中毒	日本	承認(14/9)
<bortezomib>	マントル細胞リンパ腫(フロントライン適応)	米国	承認(14/10)
TAP-144-SR <leuprorelin acetate>	前立腺がん、閉経前乳がん(6 ヶ月製剤)	日本	申請(14/9)
TAK-385 <relugolix>	前立腺がん	欧州	P-II
MLN0128 <->	乳がん	欧州	P-II
TAK-385 <relugolix>	前立腺がん	日本	P-I
MLN4924 <->	急性骨髄性白血病	-	P-I
TAK-079 <->	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス	-	P-I
MLN3126 <->	シェーグレン症候群	-	P-I

※太線以下は、2014 年度第1四半期決算開示(2014 年 8 月 1 日)以降の変更点

■ 開発中止品目 ※2013 年度決算開示(2014 年 5 月 8 日)以降の情報

開発コード <一般名>	効能(開発ステージ)	中止および終了理由
SYR-472 <trelagliptin>	2 型糖尿病(米国/欧州 P-II)	欧米の承認取得に必要な開発費用を勘案した結果、開発中止を決定。
TAK-700 <orteronel>	前立腺がん (米国/欧州/日本 P-III)	2 つの orteronel(TAK-700)とプレドニソンを併用した P-III 試験において、orteronel は再発までの期間を延長することが示されたものの、全生存期間(OS)において改善がみられなかったため、開発を中止することを決定。
<peginesatide>	透析期患者(成人)を対象とした腎性貧血(欧州 P-III)	2013 年 2 月、重篤な過敏性反応に関する市販後報告があったことに基づき、peginesatide の販売を行っていた米国市場から自主的に全ロットを回収。原因究明のための調査を実施し、その調査結果からは、peginesatide 自体の品質、製造過程における問題がないことが確認されたが、過敏性反応を引き起こした原因は特定されなかった。本調査結果に基づき、本製品のさらなる臨床開発の中止を決定。

■ ブラジル・中国・ロシアにおける申請・承認

タケダは、新興国を含め、グローバルにおいて、申請・承認に向けて取り組んでおります。新興国の中でも、重要な新興国市場であるブラジル、中国およびロシアにおける、申請・承認の状況は以下の通りです。

地域	開発コード／製品名（開発段階）
ブラジル	TAK-491 ^{*3} / クロルタリドンとの合剤（承認 14/7）、SGN-35（承認 14/9）、SYR-322/メホルミンとの合剤（申請 13/7）、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤（申請 13/12）、TAK-375 ^{*4} （申請 14/3）、MLN0002（申請 14/9）
中国	roflumilast ^{*5} （申請 11/12）、SGN-35（申請 13/5）
ロシア	TAK-390MR ^{*6} （承認 14/5）、SYR-322（承認 14/10）、SYR-322/メホルミンとの合剤（申請 14/3）、SGN-35（申請 14/5）、TAK-491/クロルタリドンとの合剤（申請 14/5）

*3 TAK-491 <azilsartan medoxomil> アンジオテンシン II 受容体拮抗薬（経口剤）高血圧症

*4 TAK-375 <ramelteon> MT₁/MT₂受容体作動薬（経口剤）不眠症

*5 <roflumilast> PDE4 阻害薬（経口剤）慢性閉塞性肺疾患

*6 TAK-390MR <dexlansoprazole> プロトンポンプ阻害薬（経口剤）逆流性食道炎の治療、非びらん性胃食道逆流症

■ 開発品目の特徴

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN0002 〈vedolizumab〉	ENTYVIO™ (米、欧)	ヒト化抗 $\alpha 4 \beta 7$ インテグリン モノクローナル抗体	潰瘍性大腸炎、クローン病	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、潰瘍性大腸炎やクローン病における炎症発生プロセスに関与するとされる循環白血球のサブセットに発現する $\alpha 4 \beta 7$ インテグリンに特異的に結合し、消化管における血管やリンパ節に特異的に存在する細胞接着分子MAdCAM-1(mucosal addressin cell adhesion molecule 1)と $\alpha 4 \beta 7$ インテグリンとの結合を阻害するヒト化抗体である。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
〈naltrexone XR /bupropion XR〉	CONTRAVE® (米)	μ オピオイド受容体拮抗薬・ ドーパミン/ノルエピネフリン 再取込阻害薬	肥満症	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、異なる2つの成分が相互補完的に中枢神経系へ作用して、食物摂取とエネルギー代謝のバランスを整え、脳の報酬系回路に基づく摂食行動を抑制する。肥満症患者を対象とした臨床試験において、本薬は有意な体重減少および減少後の体重維持を示すとともに、心血管・代謝性疾患のリスクを示す臨床検査値や摂食行動を改善することが確認されている。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
〈fomepizole〉	ホメピゾール点滴静注1.5g「タケダ」	アルコール脱水素酵素阻害薬	エチレングリコール中毒およびメタノール中毒	注射
[作用機序・特記事項] 本剤は、アルコール脱水素酵素 (ADH) を競合的に阻害することにより、エチレングリコール・メタノールの代謝を阻害し、これらの毒性代謝物 (有機酸) の産生を抑える解毒薬である。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-438 〈vonoprazan〉	未定	カリウムイオン競合型 アシッドブロッカー	酸関連疾患 (胃食道逆流症、消化性潰瘍等)	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、胃壁細胞における酸分泌の最終段階であるプロトンポンプを阻害することにより胃酸分泌を抑制する、potassium-competitive acid blocker (P-CAB、カリウムイオン競合型アシッドブロッカー) である。PPIは、酸生成部位に到達して活性体となり、プロトンポンプと不可逆的に結合する一方、TAK-438は、直接、カリウムイオンと競合し、プロトンポンプのはたらきを可逆的に阻害することで、酸分泌を抑制する。非臨床およびP-1試験成績から、PPIに比較して強い胃酸分泌抑制作用、早い作用発現およびPPIを上回る作用持続が見られた。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
SYR-472 〈trelagliptin〉	未定	DPP-4阻害薬	糖尿病	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、インスリン分泌を高めるホルモンであるグルカゴン様ペプチド-1 (GLP-1) を分解する酵素であるDPP-4を阻害する経口糖尿病治療薬 (1週間製剤) である。GLP-1は、食物摂取により消化管にて分泌され、膵 β 細胞を刺激し、インスリン分泌を増加させるとともに、 β 細胞自体の機能を改善することが確認されている。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-816	未定	Hibワクチン	Hib感染症予防	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、インフルエンザ菌b型 (Hib) による感染症の予防を目的としたワクチン。無毒化したジフテリア毒素と結合させることで免疫原性 (抗体の産生を誘起する性質) を高め、乳幼児においても有効に抗体を産生できるようにしたものである。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN9708 ＜Ixazomib＞	未定	プロテアソーム阻害薬	再発・難治性の多発性骨髄腫、 未治療の多発性骨髄腫、 自家造血幹細胞移植後における多発性骨髄腫 の維持療法、 再発・難治性の原発性ALアミロイドーシス、 固形がん	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、多くの蛋白質の分解を阻害し、細胞内のシグナル伝達経路に影響を及ぼす経口のプロテアソーム阻害薬である。前臨床のIn vitro試験において、プロテアソーム阻害が様々ながん種に対しての効果が確認されている。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN8237 ＜alisertib＞	未定	オーロラAキナーゼ阻害薬	再発・難治性の末梢T細胞リンパ腫、 小細胞肺がん、卵巣がん、 非ホジキンリンパ腫、固形がん	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、選択性の非常に高い経口の低分子オーロラ A キナーゼ阻害薬である。オーロラ A キナーゼ、B キナーゼとともに細胞の有糸分裂に重要な役割を果たすが、細胞内での分布や有糸分裂の過程における役割が異なることが知られている。またオーロラ A キナーゼは、中心体および紡錘体極に存在するセリン・スレオニンキナーゼであり、有糸分裂時の紡錘体の形成に重要な役割を果たすことが知られている。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
Lu AA21004 ＜vortioxetine＞	BRINTELLIX®(米)	多重作用メカニズム型 抗うつ薬	大うつ病、全般性不安障害	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、神経伝達物質セロトニン(5-HT)の再取り込みを阻害し、また、5-HT1A受容体作動作用、5-HT1B受容体の部分的作動作用、5-HT3、5-HT1D、5-HT7受容体拮抗作用などの複数のセロトニン受容体に作用すると考えられています。複数の前臨床試験(in vivo)において、脳の特定位点における細胞外のモノアミン(セロトニン、ノルアドレナリン、ドーパミン、ヒスタミンおよびアセチルコリン)のレベルを増加させることが示されている。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
＜motesanib diphosphate＞	未定	VEGFR1-3、PDGFR、c-Kit阻 害薬	進行性非扁平上皮型 非小細胞肺がん	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、経口のマルチキナーゼ阻害薬であり、がんの増殖や血管新生をもたらす血管内皮増殖因子(VEGF:Vascular Endothelial Growth Factor)受容体、血小板由来増殖因子(PDGF:Platelet Derived Growth Factor)受容体及び幹細胞因子受容体(c-kit : Stem Cell Factor Receptor)を選択的に阻害する。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
AMG 386 ＜trebananib＞	未定	アンジオポエチン阻害 ペプチボディ	卵巣がん	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、血管新生に関与するアンジオポエチンを阻害するペプチボディ(Fc-ペプチド融合たん白質)。アンジオポエチンは、血管内皮増殖因子(VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor)とは異なるシグナル伝達経路を介し血管新生を刺激するサイトカインのひとつである。本薬は、アンジオポエチン1および2を阻害することで血管新生を阻害する。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN0264	未定	抗グアニル酸シクラーゼ(GCC) 抗体薬物複合体	胃がん、膵臓がん	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、グアニル酸シクラーゼ(GCC)と選択的に結合し、GCCが発現している細胞をナノモル(10 ⁻⁹ M)以下の低濃度で死滅させる新規のファーストインクラスの薬剤。シアトルジェネティックス社から導入した技術を活用し、強い毒性のある微小管阻害剤であるモノメチルアウリスチンE(MMAE)とミレニウムが創製したモノクローナル抗体を解列可能なリンカーで結合している。GCCは消化管の上皮細胞の血液側である側底側細胞膜ではなく、管腔側である頂端側細胞膜に存在する膜貫通型の受容体であることから、本来は血行性の薬剤はGCCには到達しにくい。腫瘍化した細胞ではGCCの細胞膜における局在プロファイルに変化が起こり(立体的位置関係に変化が生じ、血液側である側底側細胞膜にも存在するようになる)、全身投与した薬剤が血液を通じてGCCに到達可能となる。GCCは胃がん、膵がん、大腸がんを含めた様々ながんが発現する。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-385 ＜relugolix＞	未定	LH-RHアンタゴニスト	子宮内膜症、子宮筋腫、 前立腺がん	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、非ペプチド性の経口投与可能なLH-RHアンタゴニストであり、下垂体前葉好塩基性細胞(分泌細胞)に存在するLH-RH受容体においてLH-RHと拮抗し、LH-RH刺激による当該細胞からのLH、FSHの分泌を阻害することにより、性ホルモンの血中濃度を低下させる。TAK-385は子宮内膜症、子宮筋腫、前立腺がん等の性ホルモン依存性疾患治療薬として期待される。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN0128	未定	mTORC1/2阻害薬	乳がん、固形がん	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、mTOR1/2阻害薬で、複数のP-1試験から良好なデータが得られており、2014年に乳がんを対象としたP-2試験を開始した。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-003	未定	4価 Deng 熱 ワクチン	Deng 熱 の 予 防	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、Deng 熱 の 原因 となる 4 つ の ウィルス 型 全て を 含む 4 価 の 弱 毒 化 生 ワクチン である (4 価 Deng 熱 ワクチン)。Deng 熱 ウィルス 1 型、3 型、4 型 に 相当 する 弱 毒 性 キメラ ワクチン 株 は、Deng 熱 ウィルス 2 型 の 弱 毒 株 (DEN-2 遺 伝 子、PDK-53) を ベース として 遺 伝 子、膜 関 連 遺 伝 子 (prM と E) を、ヒト において Deng 熱 の 原因 となる 各 野 生 型 ウィルス 株 の 膜 関 連 遺 伝 子 に 置き 換 える こと で 製造 される。前 臨床 モデル において 抗体 反応 および T 細胞 による 免疫 獲得 を 促進 する。P-1 および P-2 の 臨床 試験 において、多 様な 年齢 層 および 地域 において (Deng 熱 流行 国 および 非 流行 国 の い ずれ において も)、2 回 の 接種 により 全て の Deng 熱 ウィルス 型 に対して 免疫 反応 を 示 し、安全性 に関する 懸念 も 見 ら れ て い ない。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
Norovirus vaccine	未定	ノロウイルスワクチン	ノロウイルスによる急性胃腸炎の予防	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、アルミニウムおよびMPLをアジュバントとして使用しており、主に人間に感染症状を引き起こす2つの遺伝子群を模倣するウイルス様粒子(Virus-Like Particle: VLP)抗原を含んでいる。本剤は臨床開発段階にある世界で唯一のノロウイルスワクチンである。臨床第1相試験および第1/2相試験において、良好な忍容性、およびノロウイルスを経口負荷投与した被験者における軽度～高度な嘔吐・下痢症状の発現頻度の減少が示されている。本剤は筋肉内投与製剤である。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-114	未定	炎症性サイトカイン抑制薬	潰瘍性大腸炎	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、炎症を助長し、疾患を悪化させる炎症性サイトカイン(インターロイキン-1β、インターロイキン-6、インターロイキン-12や腫瘍壊死因子)の発現を抑制する低分子化合物である。また、TAK-114はインターロイキン-10というサイトカインの産生を促進することにより、炎症性反応をさらに抑制する。炎症性反応を抑制することによって、引き起こされる組織破壊も抑制されると考えられる。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-361S	未定	4種混合ワクチン	百日せき、ジフテリア、破傷風、 ポリオにより感染症の予防	注射

[作用機序・特記事項]

本薬は、百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン(DTaP)ワクチンにセービン不活化ポリオワクチン(sIPV)を加えた4種混合ワクチン。sIPVは弱毒株を用いた不活化ポリオワクチンである。現在、多くの国で使用されている野生株を用いた不活化ポリオワクチンとは異なり、製造工程での安全管理面に優れるため、高度な安全管理施設を必要としない点が特徴である。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MT203 ＜namilumab＞	未定	GM-CSFモノクローナル抗体	乾癬、関節リウマチ	注射

[作用機序・特記事項]

本薬は、可溶性サイトカンに結合することにより、顆粒球マクロファージコロニー刺激因子(GM-CSF)を中和する完全ヒト型モノクローナル抗体薬剤。炎症誘発性サイトカンであるGM-CSFは、様々な自己免疫疾患および炎症性疾患において重要な役割を果たすことが示されており、MT203は乾癬および関節リウマチの新たな治療薬として開発されている。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-850	未定	インフルエンザワクチン	インフルエンザウイルスのA亜型およびB亜型 によるインフルエンザの予防	注射

[作用機序・特記事項]

本薬は、バクスター社のヴェロ細胞培養技術を用いた不活化季節性インフルエンザワクチンである。卵、保存剤、アジュバント、抗生剤を使用していないため、それらに対しアレルギーを有する方への接種も期待される。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-733	未定	MEK阻害薬	固形がん	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、MEKキナーゼに高い選択性を有し、分子構造に影響を及ぼすATP非競合のMEKキナーゼ阻害薬。MEKシグナルは、がん細胞内における分裂と生存の両方のシグナルを調整する重要な役割を担っており、この経路は、人のがんの50%において活性化されている(大腸がん・肺がん・乳がん・膵臓がん・黒色腫・卵巣がん・腎臓がんを含む)。前臨床試験において、TAK-733のMEK阻害効果は、単剤および他剤と組み合わせることによって、腫瘍の進行に大きな抑制効果を及ぼすことが確認されている。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-272	未定	直接的レニン阻害薬	高血圧症	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、レニン-アンジオテンシン系の酵素分解経路の最上流に位置するレニンを直接的に阻害する薬剤(DRI)。前臨床試験において、ヒトのレニンを選択的に阻害し、効果的に血圧を下げるとともに、強力な臓器保護作用を有することも確認されている。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-063	未定	PDE10A阻害薬	統合失調症	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、PDE10Aを選択的に阻害する。線条体におけるドパミン作動性およびグルタミン酸作動性のsecond messenger経路を調節するため、統合失調症治療の新たなアプローチとなる可能性がある。In vivoにおいて、PDE10A阻害は、抗精神病作用を示すことが示唆されている。本薬は、線条体機能への潜在的な影響を踏まえ、非臨床、臨床プログラムでは、統合失調症を適応症とした開発を進めている。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-137	未定	AMPA受容体ポテンシエーター	精神疾患、神経疾患	経口
[作用機序] 本薬は、当社が独自技術により創製した AMPA (α-amino-3-hydroxy-5-methyl-4-isoxazolepropionic acid)型グルタミン酸受容体(以下「AMPA 受容体」)ポテンシエーターである。グルタミン酸は、脳内の興奮性神経伝達物質であり、AMPA 受容体など他の受容体と結合することで、中枢神経系において興奮性の情報伝達を仲介するとともに、記憶・学習機能、脳の発達における神経ネットワークの形成に重要な役割を果たしていると考えられている。これまでに発表された前臨床、臨床データから、AMPA 受容体の活性化は精神疾患および神経疾患の有効な治療法になりうる事が示されており、AMPA 受容体ポテンシエーターは中枢神経系疾患によく見られる認知機能障害を改善できると考えている。本薬は、有効性に加えて、優れた安全性、忍容性を併せ持つ薬剤になると期待されている。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-659	未定	選択的脾臓チロシンキナーゼ 阻害薬	血液がん、固形がん	経口
[作用機序] 本薬は、経口投与可能な選択的脾臓チロシンキナーゼ(SYK)およびFms様チロシンキナーゼ3(FLT3)阻害薬である。SYKは造血細胞に広範囲に発現する非受容体型チロシンキナーゼであり、活性化免疫受容体(B細胞やFc受容体)と、増殖、分化、貪食といった様々な細胞反応に介在する下流シグナル伝達に関係している。SYKはリンパ腫や白血病において、活性化していることが知られている。活性化したSYKが発現している腫瘍には、B細胞受容体からのシグナルに依存しているB細胞腫瘍やFcガンマ受容体からのシグナルに依存した骨髄腫瘍、EBウイルスが関連している血液がん、固形がんがある。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-233	未定	-	-	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、経口投与可能な薬剤である。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-935	未定	CH24H阻害薬	グルタミン酸興奮毒性に関連する疾患	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、脳におけるコレステロールの異化作用(分子を小さな構成部分に分解してエネルギーを取り出す代謝過程)において主な役割を果たしている、中枢神経系に特有の酵素であるコレステロール-24-ヒドロキシラーゼ(CH24H)を強力に阻害する低分子化合物である。最近公表された研究によると、CH24Hは、グルタミン酸神経伝達経路の過剰な活性化に関与するとされている。このことはCH24Hがてんかん、外傷性脳損傷およびアルツハイマー病等の中枢神経疾患に役割を果たしている可能性を示している。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-058	未定	5-HT3受容体アンタゴニスト	統合失調症、特に統合失調に伴う 認知機能障害	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、中枢神経系疾患を対象として最適化された、選択性の高い強力な5-HT3アンタゴニストである。前頭前皮質にあるパルプアルブミン陽性抑制性介在神経細胞は、記憶および認知に関連する重要な神経回路を調整しており、統合失調症患者の脳では、その働きが低下している。5-HT3受容体を阻害することにより、パルプアルブミン陽性抑制性介在神経細胞の抑制が解除され、皮質の興奮性と抑制性入力インバランスが回復し、統合失調症の患者における認知機能が改善すると期待されている。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-079	未定	細胞溶解性モノクローナル抗体	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、細胞溶解性モノクローナル抗体である。				

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
INV21	未定	EV71ワクチン	エンテロウイルス71により発症する 手足口病の予防	注射

[作用機序・特記事項]

本薬は、不活化全粒子型ワクチンであり、水酸化アルミニウムをアジュバントとして含有し、ペロ細胞で培養したものである。EV71の通常株（遺伝子型B2）を使用している。36名の健康人を対象としてシンガポールで実施したP-1試験において、すべての被験者に十分な免疫反応が見られるとともに、安全性に関する懸念は見られなかった。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN3126	未定	CCR9アンタゴニスト	シェーグレン症候群	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、原発性シェーグレン症候群の治療薬として開発中の経口の低分子C-Cモチーフレセプター9 (CCR9) アンタゴニストである。公表されている研究データから、シェーグレン症候群患者の末梢血およびシェーグレン症候群モデルマウスの唾液腺において、CCR9陽性T細胞の増加が示唆されている。今後、様々な試験において、シェーグレン症候群患者の組織および末梢血におけるCCR9およびCCR9リガンド (CCL25) の発現、疾患の進行と重症度との相関性についてさらに情報を集める予定である。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN4924	未定	NEDD8活性化酵素阻害薬	進行性がん、急性骨髄性白血病	注射

[作用機序・特記事項]

本薬は、ミレニアム社が創製したファーストインクラスで、低分子のNEDD 8 活性化酵素 (NAE) 阻害薬である。MLN4924はがん細胞の成長や生存において重要な働きをしているユビキチン・プロテアソーム経路において、重要な役割を果たすNAEを阻害し、前臨床モデルにおいては、本薬はがん細胞の成長を阻止し、細胞を死滅させることが示されている。現在固形がんおよび血液がんの患者に対して臨床試験が実施されている。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN1117	未定	PI3K α イソフォーム阻害薬	固形がん	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、 α イソフォーム選択的PI3K阻害薬で、2011年9月に臨床試験を開始。進行性固形がん：PIK3CA遺伝子変異が認められる進行性固形がんを対象に、単独療法としてのMLN1117の安全性、忍容性および薬物動態を評価するため、P-1用量漸増試験を実施中である。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN7243	未定	ユビキチン活性化酵素阻害薬	固形がん	注射

[作用機序・特記事項]

本薬は、ファースト・イン・クラスであり、ユビキチン活性化酵素 (UAE) を選択的に阻害する。本薬は、ユビキチン活性化酵素を阻害することによって、小胞体ストレスや傷害DNAの修復、細胞周期停止や細胞のアポトーシスを引き起こす。

開発品コード ＜一般名＞	商品名	薬効	効能	投与経路
MLN2480	未定	pan-Rafキナーゼ阻害薬	固形がん	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、選択的pan-Rafキナーゼ阻害剤である。Rafキナーゼ (A-Raf、B-Raf、C-Raf) は、マイトジェン (分裂促進因子) により活性化されるタンパクキナーゼ (MAPキナーゼ) 経路 (MAPK経路) 内にあり、細胞の増殖や生存に重要な役割を果たす。このMARK経路はRafやRasの突然変異が起こることによって制御不能になる。本薬での治療により、B-Raf^{A600E/D}突然変異型、あるいはB-Rafの野生型の異種移植モデルにおいて優れた抗腫瘍効果が認められた。本薬は前臨床試験で良好な結果が得られており、固形がんの治療薬としての可能性を有している。

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
ITI-214	未定	PDE1阻害薬	統合失調症に伴う 認知機能障害	経口
[作用機序・特記事項] 本薬はホスホジエステラーゼ (PDE) 1阻害薬である。PDE1阻害薬は、脳の前頭前野でのドーパミン (D1) 受容体のシグナル伝達を増強することにより、認知機能を改善させる可能性があり、ドーパミン受容体を拮抗する作用機序を有する殆どの既存の統合失調症の治療薬と異なる作用機序である。PDE1阻害薬 (ITI-214を含む) は、認知機能を増強させることが前臨床試験の動物モデルにて確認されている。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
Lu AA24530	未定	多重作用メカニズム型抗うつ薬	大うつ病、全般性不安障害	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、前臨床試験において、モノアミン輸送体における再取り込みを抑制してモノアミンを増加させること、また5-HT ₃ および5-HT _{2c} 受容体に拮抗薬として働くことが示されている。ラットにおける試験で、脳内の気分のコントロールに重要な役割を担う部位において、アセチルコリン、ノルアドレナリン、ドーパミン、セロトニンのレベルを増加させることが明らかになっている。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
AMG 403 〈fulranumab〉	未定	ヒト型抗ヒト神経成長因子 (NGF) モノクローナル抗体	疼痛	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、ヒト神経成長因子 (NGF) の生物学的作用を特異的に中和する、ヒト型モノクローナル抗体である。NGFは、種々の炎症性及び神経障害性疼痛の動物モデルで、持続性の疼痛に関与することが示されている。また、慢性関節炎患者の膝関節や他の慢性的な疼痛を有する患者において増加することが示唆されている。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
〈rasagiline〉	未定	モノアミン酸化酵素B (MOA-B) 阻害薬	パーキンソン病	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、テバ社が保有するパーキンソン病治療薬であり、当社は日本における製品化に関する契約を締結した。本薬はドーパミンの分解酵素であるモノアミン酸化酵素B (MAO-B) の働きを阻害することによって、脳内のドーパミン濃度を高め、パーキンソン病に特徴的な運動症状などを改善する薬剤である。				

[剤型・効能追加]

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	適応症/剤型	投与経路
〈bortezomib〉	VELCADE®	プロテアソーム阻害剤	マントル細胞リンパ腫 (フロントライン適応)、 多発性骨髄腫の再治療、 再発性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、すべての細胞に存在し、細胞が生存・増殖する上で必要な酵素であるプロテアソームの作用を阻害することによって、不要な蛋白質を分解できなくし、がん細胞を死滅させるという作用を有する。プロテアソームは、がん細胞の分裂や増殖過程において作られた蛋白質や細胞内に生じた異常な蛋白質を分解するだけでなく、血管新生や細胞増殖に関与する蛋白質も分解する。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	適応症/剤型	投与経路
TAP-144-SR 〈leuprorelin acetate〉	リュープリン®(日) LUPRON DEPOT®(米) ENANTONE®など(欧、亜)	LH-RHアゴニスト	前立腺がん、閉経前乳がん (6ヶ月製剤)	注射
[作用機序・特記事項] 本薬は、長期持続型のLH-RH誘導体。世界80カ国以上で発売され、前立腺がん治療分野におけるスタンダード薬となっている。米国及び欧州では、1回の注射で1ヶ月から最長6ヶ月間治療効果が持続する剤型が発売されており、日本では、3ヶ月製剤について、前立腺がん(2002年8月)、閉経前乳がん(2005年8月)が承認されている。日本においては2014年9月、厚生労働省に製造販売承認申請を行った。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
〈ferumoxytol〉	RIENSO®(欧) FERAHEME®(カナダ)	静注用鉄製剤	経口鉄剤を服用できないもしくは 経口鉄剤による治療が有効でない患者 におけるあらゆる原因の鉄欠乏性貧血	注入
[作用機序・特記事項] 本薬のベネフィットは、①貧血患者において迅速に鉄量を補充することができる ②1回の注入で投与できる鉄量をフレキシブルに変更できる ③1gの鉄を投与するために必要な通院回数が少ないこと、である。 2012年6月、RIENSOとして欧州において、成人における慢性腎疾患に伴う鉄欠乏性貧血を適応症として承認され、現在は経口鉄剤を服用できないもしくは経口鉄剤による治療が有効でない患者におけるあらゆる原因の鉄欠乏性貧血を適応症として申請中である。カナダにおいて当社がFERAHEMEとして販売しており、米国においてはAMAG社が販売している。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-375SL 〈ramelteon〉	ロゼレム(日、米)	MT ₁ /MT ₂ 受容体作動薬	双極性障害	舌下
[作用機序・特記事項] 本薬は、MT ₁ /MT ₂ 受容体に対する特異性が高い。概日リズムの乱れはI型双極性障害に顕著に見られる症状であり、メラトニン作動薬を用いた概日リズムの改善、再同期化により、急性症状の改善や再発の抑制が期待されている。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
SYR-322 〈alogliptin〉	ネシーナ®(日、米) VIPIDIA®(欧)	DPP-4阻害薬	糖尿病	経口
[作用機序・特記事項] 本薬は、インスリン分泌を高めるホルモンであるグルカゴン様ペプチド-1(GLP-1)を分解する酵素であるDPP-4を阻害する経口2型糖尿病治療薬(1日1回投与)である。GLP-1は、食物摂取により消化管にて分泌され、膵β細胞を刺激し、インスリン分泌を増加させるとともに、β細胞自体の機能を改善することが確認されている。日本では2010年4月、米国では2013年1月、欧州では2013年9月に承認を取得しており、現在はグローバルでの承認取得に向け、開発・申請活動を実施中。日本においてアクトスとの合剤(リオベル®)、米国においてアクトスとの合剤(OSENI®)およびメホルミンとの合剤(KAZANO®)、欧州においてアクトスとの合剤(INCRESYN®)およびメホルミンとの合剤(VIPDOMET®)も承認を取得している。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	適応症/剤型	投与経路
AD-4833/TOMM40	未定	インスリン抵抗性改善薬 ／バイオマーカー	アルツハイマー病に起因する 軽度認知機能障害の発症遅延	経口
[作用機序・特記事項] TOMM40は、ジンファンデル社の創設者・CEO Dr. Allen Rosesが発見したバイオマーカーであり、アポリポタンパク質E(APOE)及び年齢とともに5年以内にアルツハイマー病に起因する軽度認知機能障害を発症するリスクの高い高齢者を特定できる可能性がある。近年の研究から、TOMM40の変異は、神経のミトコンドリア機能低下に関係がある可能性が判明しており、このことは、アルツハイマー病の進展に何らかの関係があることが示唆されている。				

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
SGN-35 〈brentuximab vedotin〉	ADCETRIS®(欧・日)	CD30モノクローナル抗体薬物 複合体	再発・難治性のホジキンリンパ腫、 ホジキンリンパ腫(フロントライン適応)、 自家造血幹細胞移植後のホジキンリンパ腫、 再発・難治性の全身性未分化大細胞リンパ腫、 成熟T細胞性リンパ腫(フロントライン適応)、 再発性皮膚T細胞性リンパ腫	注射

[作用機序・特記事項]

本薬は、シアトルジェネティクス社が有する特許技術を用いて、細胞障害性薬剤MMAE(モノメチルアウリスタチンE)を化学的に抗CD30モノクローナル抗体に共有結合させたADC(抗体薬物複合体)。本薬は、血液中では安定だが、CD30が発現している腫瘍細胞に特異的に取り込まれ、蛋白分解反応によってMMAEを放出する。本薬は、ターゲットであるCD30抗原が発現している腫瘍細胞に選択的に作用することから、高い抗腫瘍効果を示すだけでなく、従来の化学療法に見られるような毒性が軽減されることが期待されている。

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	適応症/剤型	投与経路
〈lubiprostone〉	AMITIZA®(米)	クロライドチャンネル開口薬	液剤	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、クロライドチャンネルを介し腸液分泌を促進することにより、便の通過をよくし慢性特発性便秘症に伴う諸症状を改善するユニークな作用機序を持つ。また、便秘型過敏性腸症候群(IBS-C)とオピオイド誘発性便秘症(OIC)の効能も取得した。

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	適応症/剤型	投与経路
〈febuxostat XR〉	ULORIC®(米)	非プリン型選択的 キサンチンオキシダーゼ阻害薬	徐放製剤	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、プリン骨格を持たない、痛風の原因となるキサンチンオキシダーゼを選択的に阻害する薬剤であり、当社は米国において発売している ULORIC の徐放製剤である。

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
〈lurasidone hydrochloride〉	LATUDA®(欧)	非定型抗精神病薬	統合失調症、双極性障害	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、大日本住友製薬が創製した独自の化学構造を有する非定型抗精神病薬であり、ドーパミン₂、セロトニン_{5-HT_{2A}}、セロトニン_{5-HT₇}受容体に親和性を示し、アンタゴニストとして作用する。セロトニン_{5-HT_{1A}}受容体には部分作動薬として作用する。また、ヒスタミンとムスカリン受容体に対してはほとんど親和性を示さない。2014年3月、統合失調症を適応症として製造販売承認を欧州EMAより取得した。

開発品コード 〈一般名〉	商品名	薬効	効能	投与経路
TAK-390MR 〈dexlansoprazole〉	DEXILANT®(米、カナダ) DEXIVANT®(メキシコ)	プロトンポンプ阻害薬	逆流性食道炎の治療およびその維持療法、 非びらん性胃食道逆流症	経口

[作用機序・特記事項]

本薬は、当社が創製したランソプラゾールの光学異性体を、当社独自の製剤技術により有効血中濃度を持続させた1日1回経口投与の薬剤。現在、米国・カナダ・メキシコで販売されており、欧州において、分散承認方式により、16カ国で承認されている。本薬にはプロトンポンプ阻害剤(PPI)では初めてとなる当社独自のデュアル・ディレイド・リリース(Dual Delayed Release™)技術が使用されており、酸分泌抑制効果を長時間持続させるために、薬剤が二段階で放出される設計になっている。

■ホームページで開示している臨床試験情報

全ての臨床試験情報は自社ホームページの英文サイト(<http://www.takeda.com/c-t/>)で、日本における情報については和文サイト(<http://www.takeda.co.jp/c-t/>)で公開しています。

当社では、全世界の医療関係者および患者さんなど多くの方々へ臨床試験情報を公開することにより、当社製品のより一層の適正使用に資することができるものと考えています。

2.研究の状況

■ 主な共同研究活動

(1) 国内の研究機関および企業との共同研究

相手先	研究内容	期間
麒麟麦酒株式会社 (現:協和発酵キリン)	ヒト抗体技術についてのライセンス契約 (技術導入)	2003/7～
京都大学	中枢神経系制御に基づく肥満症治療薬および統合失調症治療薬の創製を目的とする共同研究	2011/1～2016/3
大阪大学	疎水化ポリ(γ-グルタミン酸)(γ-PGA)ナノ粒子をアジュバントとしたワクチンの実用化・産業化に向けた共同研究講座	2012/2～2015/1

(2) 海外の研究機関および企業との共同研究

相手先	国	研究内容	期間
XOMA Ltd.	米国	モノクローナル抗体の探索、開発、製品化技術に関する共同研究開発	2006/11～
Seattle Genetics	米国	ADC(抗体薬物複合体)の創製に関する共同研究	2009/3～
University College London	英国	新規がん治療法確立のための共同研究	2010/3～2014/3
Sage Bionetworks	米国	中枢神経疾患治療薬の創製につながる創薬ターゲットの探索を目的とした共同研究	2010/11～2015/6
Florida Hospital, Sanford-Burnham Medical Research Institute	米国	肥満症を対象とした共同研究	2010/12～2015/2
Zinfandel Pharmaceuticals	米国	アルツハイマー病のバイオマーカーである TOMM40 に関するライセンス契約	2010/12～
Structural Genomics Consortium	カナダ	ヒトタンパク質の3次元構造情報などにに基づき、創薬ターゲットの基礎研究を推進するコンソーシアムへの参加	2011/7～2015/6 *当社は、2012/4より参加
BC Cancer Agency	カナダ	遺伝子解析を利用した創薬標的探索に関する共同研究	2012/8～2015/7
Advinus Therapeutics Limited	インド	炎症性・中枢神経系・代謝性疾患を中心とした疾患領域における新規創薬標的を対象とした共同研究	2012/10～2015/9
Resolve Therapeutics	米国	全身性エリテマトーデスおよびその他の自己免疫疾患治療のための新薬候補物質を対象とした共同研究開発	2013/2～
Tri-Institutional Therapeutics Discovery Institute	米国	バイオメディカル分野における産学連携を推進し、革新的医薬品を創出するための共同研究	2013/10 ～2016/9
Trianni, Inc.	米国	モノクローナル抗体作製の基盤技術である Trianni マウスの使用权を獲得するライセンス契約	2014/3～
MacroGenics	米国	MacroGenics社のDual-Affinity Re-Targeting (DART®) 技術を活用し、両社が共同で選定した2つの分子を標的とする新薬候補物質の研究および開発	2014/9～



武田薬品工業株式会社